

学位被授与者氏名	緒方 良子
論文題目	修得の4段階と身体を通じた深い学び —与那国島の子どもの事例より—
論文審査結果の要旨	<p>教育や学習に関する研究は、教育学や発達心理学の分野において蓄積があるが、こうした成果の多くは、教授法や学習の臨界期など、教示者側からのフレームワークに注目した議論に偏っており、学修者側に視点を置く、いわゆる学びの主体性に関する問題群は、むしろ近年になって注目され始めた新しい研究課題といえる。</p> <p>一方で人類学では、身体技法の習得や、共同体への社会化のプロセスなどの分析において、教育という枠組みとは異なる技能や知識の修得システムに関する研究が進められてきた。これらの研究では、おもに学びの主体と社会環境および自然環境との相互作用が論じられている。ヒトの生涯を通じた学びを通観したときに、その多くは主体者側からの働きかけによる遊びや体験を通じて獲得されることがほとんどであり、たとえ近代社会においても、実際には教育システムはこれら学びのごく一部を構成しているにすぎない。</p> <p>概要にあるとおり、本論文ではこうした先行研究の視座をもとに、詳細な事例分析から修得の段階的プロセスを示し、学びにおける主体性や自発性の成立要件を明らかにしている。</p> <p>最終試験では、先行研究とこうした事例との関係をさらに明確にし、個人からの視点に加え社会システムからの分析がほしいという指摘があった。また教授者と学修者とをはっきり分けてしまうのではなく、主客未分離な状態での間主観的な相互作用についての分析も今後の重要な課題であるとされた。</p> <p>以上の通り、本研究は教育や学修に関連する諸分野に高い貢献が期待できるものであり、本研究科の学位論文に相応しい内容であるものとしてここに評価する。</p> <p>2022年2月12日に、北九州市立大学北方キャンパス4号館1-101教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。</p>